



▲毎月開く講話会で話す有坂さん

市民リポーター
西巻 弘光さん

●にしまさ ひろみつ
美園町在住。64歳。
室蘭市出身。小・中学校の
教員を務め、退職後は、美
園町内会役員。



みんなで広げよう 国際交流の輪

登別に暮らす外国の方の 思いと市民との交流

国際化が進み、国籍にかかわらず地域に生活するだれもが、仲良く暮らしていけるように国際理解の重要性が唱えられています。

登別に居住し、私たち日本人と同じように地域に溶け込んで、生活をしている外国の方を訪ね、自らの生まれ育った国とは生活環境や文化の違う登別での暮らしや思いをリポートしました。

登別に住む 外国の方の生活

日本で暮らす外国の方といえば語学教師や技術研修生として短期間滞在している人というイメージがありますが、国際化の進展とともに、現在登別に居住し、永住しようと考えている外国の方は、どのような思いで暮らしているのでしょうか。

自然体でのつき合いを 大切にしています

登別了英寺の住職を務める有坂了堅さんは、中国・遼寧省瀋陽市出身です。



有坂了堅さん

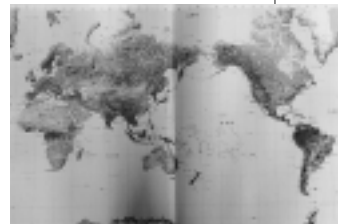
「商社マンとして勤めたころから、自分自身がこれからどう生きていくの

昭和62年に留学生として来日し、日本の大学を卒業。東京で商社に勤め、主に日中貿易の業務に携わっていたころ、登別出身の奥さんと知り合い結婚しました。二人のお子さんに恵まれ、7年前から登別で生活しています。

だろうかと気持ちのどこかで迷いはじめていました。そんなころに実家がお寺の妻と知り合い結婚、僧侶としての道を歩み始めることになりました。これも何かの縁ですね」。

有坂さんは、僧侶として毎月だん家や地域の方を対象に講話会を開いています。仏教の話だけではなく、例えば科学・技術が進んだこの国で、ホテルの4号室を「シ」・「死」と結びつけて敬遠するのはなぜか、といったような日本の習慣や文化に対する疑問を投げかけるなど、共に勉強しながら自ら日本文化を理解するように努力しています。

「宗教は、国籍や人種を超えたもの。人とは心でつき合うことが大切です。だから私は一人の僧侶として、日本人とか外国人を区別する意識はありません。何事も自然体で語り、耳を傾けることで、言葉や習慣を超え、心が通じると信じています。登別は、心が広い方が多く、また、私のふるさとに気候が似て、住み心地がいいですね」と有



市民リポートは、市民のみな
さんが自由に発想・企画する
ページです。